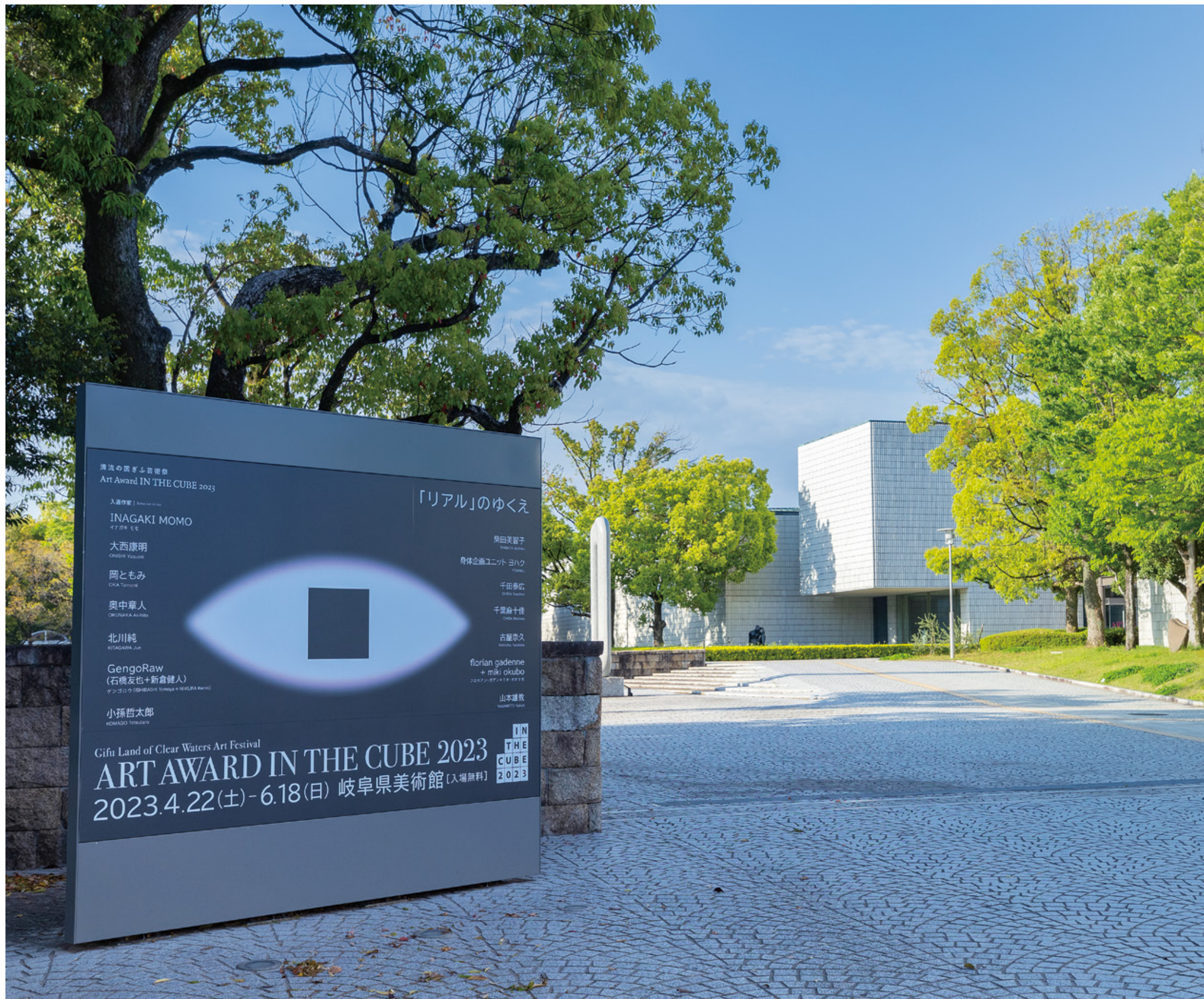




Chapter 1 Catalogue

第1章 図版



	Artist / Title	Prize	
019	INAGAKI MOMO 《JK in the street.(普通の女子高生)》	山極 寿一 賞	
023	大西 康明 《石と柵 岐阜》	入	選
027	岡 ともみ 《サカサゴト》	入	選
031	奥中 章人 《INTER-WORLD/SPHERE: Over The Cube》	北村 明子 賞 寺内 曜子 賞	
035	北川 純 《ネットショッピング》	四方 幸子 賞	
039	GengoRaw(石橋友也+新倉健人) 《パベルのランドスケープ》	入	選
043	小孫 哲太郎 《NAGAMERU》	森村 泰昌 賞	
047	柴田 美智子 《触れるもの、絶対に触れないもの》	入江 経一 賞	
051	身体企画ユニット ヨハク 《スクランブル交差空間 ―不干涉の調和―》	入	選
055	千田 泰広 《Aftereal 6》	入	選
059	千葉 麻十佳 《Melting Hida Mountains》	大	賞
063	古屋 崇久 《橋の形》	岩崎 秀雄 賞	
067	florian gadenne + miki okubo 《アンブレラ種》	入	選
071	山本 雄教 《One room》	入	選

凡例

Notes

- ・清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2023の出品作品を掲載した。
- ・制作年は、すべて2023年である。



山極寿一 賞

Title

JK in the street.(普通の女子高生)

JK in the street.(tadano joshikosei)

Artist

INAGAKI MOMO

イナガキ モモ



ただのありのままの女子高生の「いま」を、小さな悲鳴とも言えるつぶやきメッセージと共に表現した記録映像作品。プロジェクターで投影された3壁面から「いま」の「普通」の「JK」の「リアル」な「日常」の映像と声が、キューブ内いっぱいに広がり体感できる。

This work is like a documentary video that captures the “now” of an ordinary high school girl (joshi kosei in Japanese, hence “JK”) just the way she is, along with her whispered message that could also be a small scream. Images and voices projected onto three walls fill the entirety of the Cube, allowing visitors to experience the real, daily life of an ordinary JK now.



INAGAKI MOMO

イナガキ モモ

2006年 愛知県生まれ。愛知県拠点。
Born in Aichi Prefecture in 2006 / Based in Aichi Prefecture.

2021 | 愛知県立旭丘高等学校美術科 入学
2022 | ナゴヤイノベーションズガレッジ(名古屋市&中部経済連合会)公認アンバサダー就任。Z世代への広報活動に従事

主な受賞歴

2020 | 姉妹都市児童絵画 優秀賞/愛知県

〈作品制作協力〉

プロジェクター:テクノホライゾン株式会社 エルモカンパニー

椅子:株式会社メトロポリタンギャラリー

音楽:株式会社Room 若林尚

ロゴ:QUALLIA inc. 鬼頭誠

Artist's Comment

ーアートによる社会問題の「自分ごと化」ー

幼い頃から幾度も美術館に足を運んでいる中で、社会問題をテーマにした作品に出会い興味を持った。映像や空間に作品として社会問題への訴えを落とし込むことの力を感じ、私の根底に「アートが社会問題について考えるきっかけを生む」という考えが生まれた。私たちの世代はコロナで青春のさまざまなシーンとなるはずの思い出が奪われ、漠然とした不安が常に心の中に張り付いている中で、淡々と今を生き、何も見えない将来に向かって準備を進めている。そんな普段は見過ごされてしまうような社会問題をとりあげた作品により、人々に考えるきっかけを提供し「自分ごと化」させられるアートのあり方とは何かを深究したいと思い、本作品を作り上げた。



Title

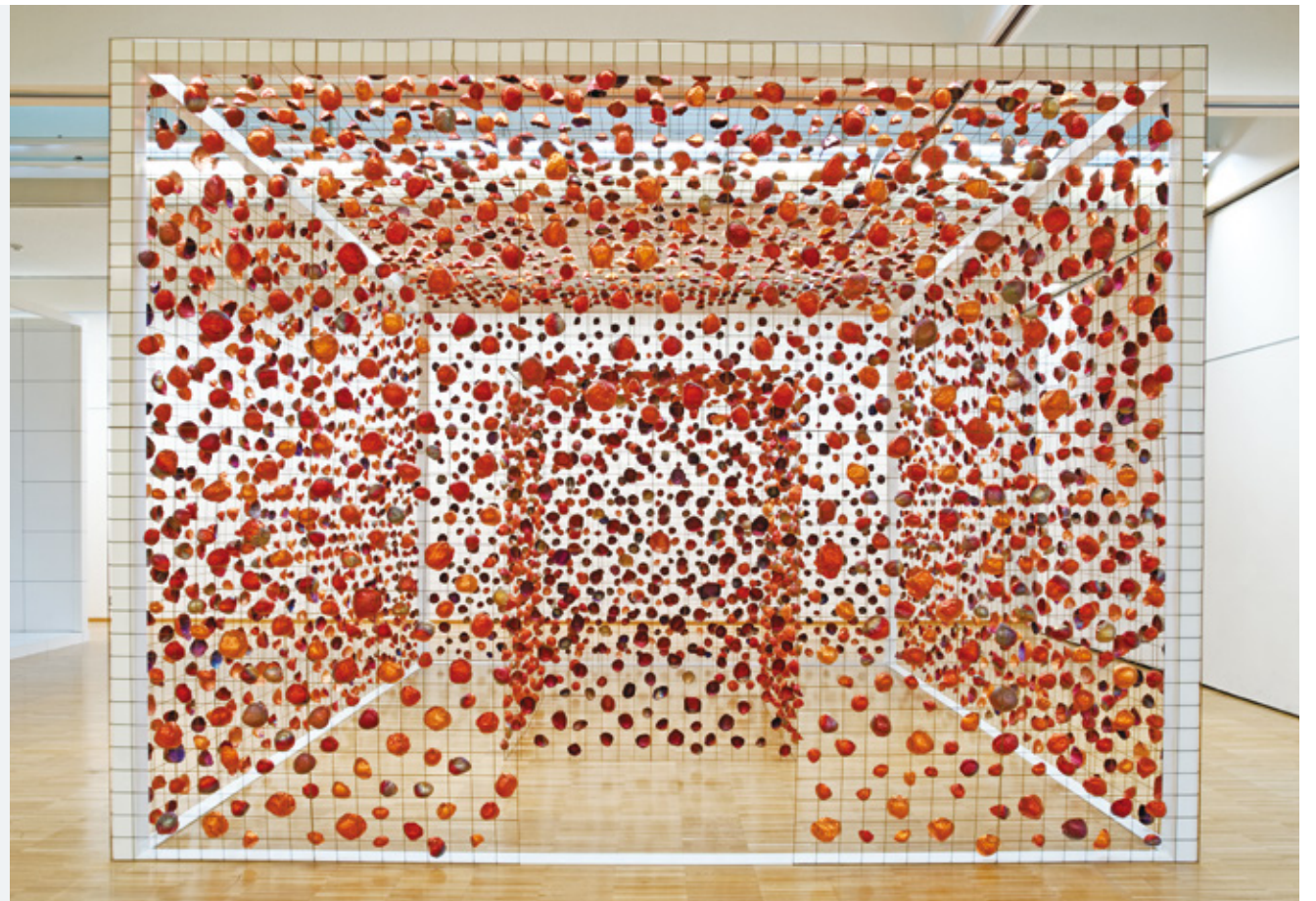
石と柵 岐阜

Stone and Fence Gifu

Artist

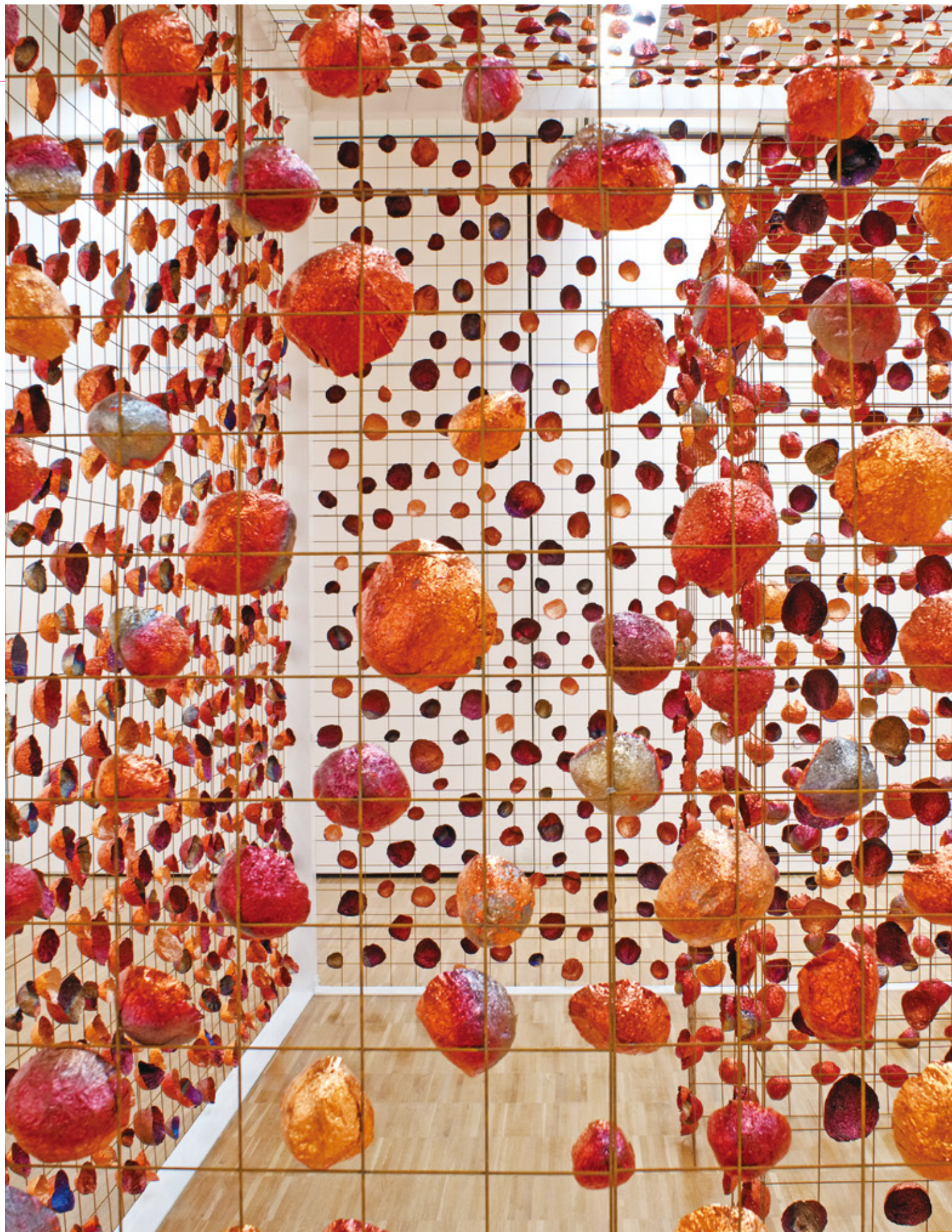
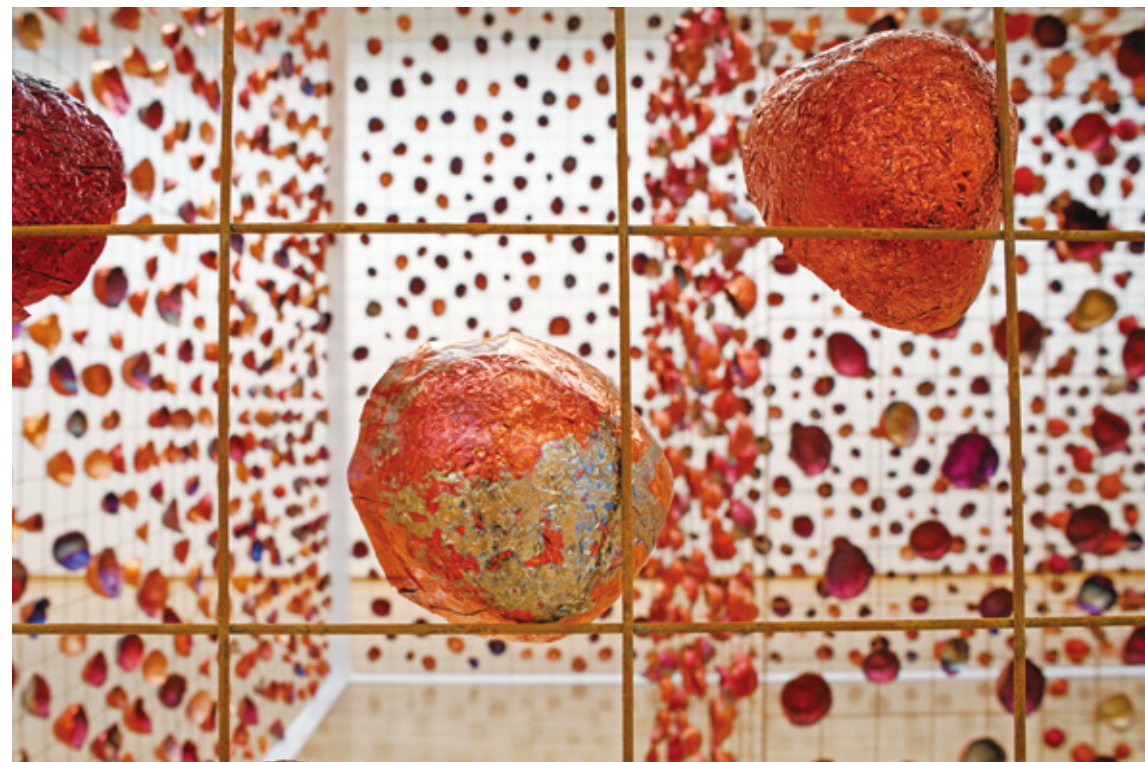
大西 康明

ONISHI Yasuaki



時間の堆積を象徴する石の形態を借り、河原全体をトレースする作品。銅箔で石を覆い、石を取り出して形を作るシンプルな方法から、大きな塊であり空洞の彫刻を制作する。
河原をトレースするという無謀にも思える行為はこの世界を認識する手がかりであり、そこから彫刻を作り出すことがリアリティです。

This work is a trace of a river bank with different forms of stones, which symbolize the accumulation of time. A large mass that is also a hollow sculpture is produced by the simple method of creating forms by covering stones with copper foil and then removing the stones. The seemingly reckless act of tracing a river bank is a clue to understanding this world, and creating a sculpture through this process is my reality.



大西 康明

ONISHI Yasuaki

1979年 大阪府生まれ。大阪府拠点。
Born in Osaka Prefecture in 1979 / Based in Osaka Prefecture.

- | | |
|------|---------------------------|
| 2001 | 筑波大学芸術専門学群技術専攻 卒業 |
| 2004 | 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻 修了 |
| 2007 | 第1回秀桜基金留学賞によりヨーロッパに滞在 |
| 2011 | ポーラ美術振興財団在外研修員としてイギリスにて研修 |

主な受賞歴

- | | |
|------|--------------------|
| 2007 | 第10回岡本太郎現代芸術賞展 太郎賞 |
| 2014 | 咲くやこの花賞 大阪市 |

主な展覧会

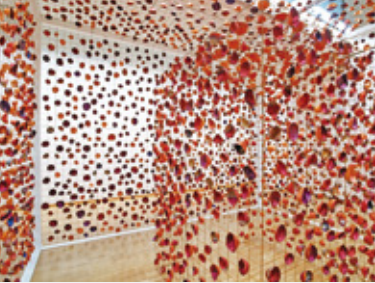
- | | |
|------|---|
| 2017 | 「個展」空間の緑/アートコートギャラリー/大阪府 |
| 2018 | 水と土の芸術祭/万代島多目的広場/新潟県
The Moon/ルイジアナ近代美術館/デンマーク |
| 2019 | Negative Space/ZKM/ドイツ |
| 2020 | Writing of Light/National Taiwan Museum of Fine Arts/台湾 |
| 2021 | 高松コンテンポラリーアート・アニユアル vol.09/高松市美術館/香川県 |
| 2022 | KYOTO STEAM 2022/京都市京セラ美術館/京都府 |

〈作品制作協力〉

福田金属箔粉工業株式会社

Artist's Comment

フェンスを二重構造に設置しキューブの中に小さいキューブを置く作品を見てみたい
と思い立ちました。一つ目の外側のキューブに入ると外の層と中の層の両側の石の型
に挟まれるように配置しています。外側からも内側からも視線が浸透していくような感
覚や、異なる層の型が一つの石として合わさるような発見が得られることで新しい風景
が見えてくることを期待して制作しました。



Title

サカサゴト

Sakasagoto -Inverted Ordinary Life-

Artist

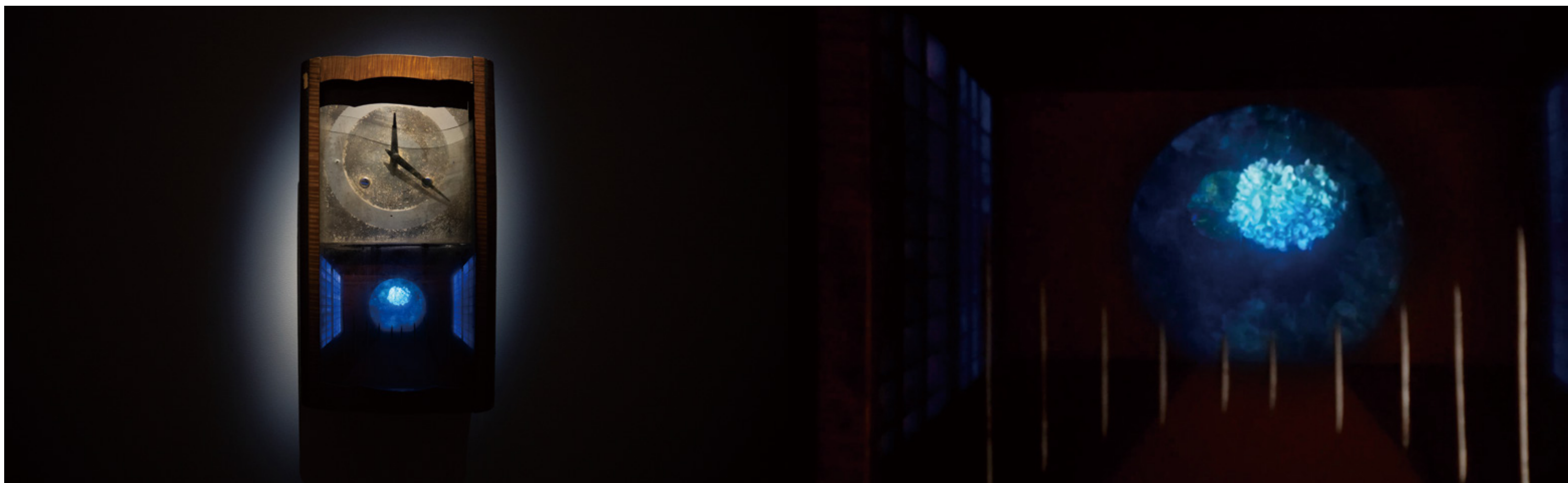
岡 ともみ

OKA Tomomi



本作品では古時計の盤面は反転し、針は逆回転して
いる。古時計が反転する時、忘れ去られようとしてい
る葬送の風習を思い出すように、内部の映像が再生さ
れる。亡くした人やあの世のことを、生者の誰もがリア
ルに感じるができない。だからこそ、あの世やあ
の世への道を想像し、手に取ろうとする。それを想像
しようとする営みそのものが、死を自身の中にリアル
なものとして受け入れるそれぞれの儀式になっていく
のかもしれない。

In this room, the faces of actual clocks are reversed,
their hands turning backwards. When these old clocks
run in reverse, images play within as if to remind us of
funeral customs all but forgotten. No one alive can
really sense those who have departed, or the afterlife,
which is why we try so hard to imagine the next world,
and the path leading there, and bring them within our
grasp. Perhaps the very endeavor of that imagining is
what informs the rituals that let us accept within
ourselves the reality of death.



岡ともみ

OKA Tomomi

1992年 東京都生まれ。東京都・岡山県拠点。
Born in Tokyo in 1992 / Based in Tokyo and Okayama Prefectures.

2018 | 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科 卒業
2019 | ベルリン芸術大学 留学
2022 | 東京藝術大学美術研究科 修了
現 在 | 同研究科博士後期課程 在籍

主な受賞歴

2022 | 三菱地所賞/日本/東京
第16回shiseido art egg入選/日本/東京

主な展覧会

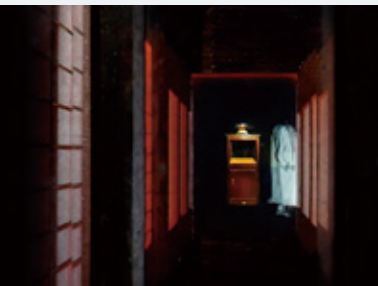
2018 | 個展「どこにもいけないドア」/art space Kimura ASK?P/東京
オープン・スペース/インターコミュニケーションセンターICC/東京(～2019)
2022 | 個展「誰そ彼時の部屋」/art space Kimura ASK?P/東京
shiseido art egg 岡ともみ展「サカサゴト」/SHISEIDO GALLERY/東京

〈作品制作協力〉

技術協力:tettou771
サウンド:小林有毅
制作協力:速藤純一郎

Artist's Comment

大きなブラックボックスにもできるキューブという展示空間は、若手作家にとっては実はとても貴重な空間です。特にグループ展などでは、ブラックの個室空間を自身のために用意してもらうには、かなりの予算がかかるため、大きさを縮小したり、明るさや音などの面でも妥協しなければならないことが多いからです。今作「サカサゴト」は他の場所でも展示したことのある作品ではありませんでしたが、初の試みとして、CUBEの正方形に近い形を活かし、時計を回廊上に配置しそれを取り囲む壁には映り込みの出る仕掛けを仕込みました。ここでしかできない作品の新たな展開を作れたことは、私にとっても作品にとってもとても幸せな経験になりました。



北村明子 賞



寺内曜子 賞

Title

INTER-WORLD/SPHERE: Over The Cube

INTER-WORLD/SPHERE: Over The Cube

Artist

奥中 章人

OKUNAKA Akihito



キューブをはみ出すように膨らむ虹色透明風船。中に入ると鑑賞者は床に敷かれた水面の上に寝転がることができる。仰ぎ見ると、たゆたう鏡面世界が広がり、人の存在が、水、空気、光の膜を通じて環境に干渉し揺らめく。光源や角度で色合いが変化する作品の表象は、自己の変動性や多面性、人間の多様性社会を肯定し、また空気や水、光を通じて環境の重要性を暗示している。

A rainbow color transparent balloon swells up, bulging out of the framework of the Cube. Inside the Cube, a visitor can lie down on the surface of a water mattress on the floor. From that position, the visitor can look up at the universe of wobbling mirrors reflecting images of the quivering human presence on the environment through the films of water, air, and light. This work, which produces reflections that change in hue depending on the sources and angles of light, affirms the variability and multifaceted nature of one's self and the diversity of human society while suggesting the preciousness of the environment with air, water, and light.



奥中 章人

OKUNAKA Akihito

1981年 京都府生まれ。京都府拠点。
Born in Kyoto Prefecture in 1981 / Based in Kyoto Prefecture.

2004 | 静岡大学教育学部 卒業

主な受賞歴

2016 木津川アート賞グランプリ+市民賞/京都/日本
2017 六甲ミーツ・アート主催者特別賞/兵庫/日本
2019 野村財団 2019年度下期芸術文化助成/東京/日本
LUXELAKES A4美術館ARIE国際レジデンスプログラム/成都/中国
2020 パブリックリソース財団文化・芸術・スポーツ分野助成基金/東京/日本

主な展覧会

2017 モスクワ国際ビエンナーレ・Parallel Program《Yearning for The Sky》/ARTPLAYデザインセンター/モスクワ/ロシア
アートで解明! 空気の正体/川口市立アートギャラリー・アトリア/埼玉/日本
2018 TaeHwa River Eco Art Festival 2018/Teahwa River Grand Park/ウルサン/韓国
2019 ShenZhen Happy Island Project/OCT Harbor/深セン/中国
2021 北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs/東田大通り公園/福岡/日本
FUJI TEXTILE WEEK 2021 -織りと気配- /富士吉田市/山梨/日本
個展・ブレBIWAKOビエンナーレ《INTER-WORLD》/旧伴家住宅/滋賀/日本
Dmitry Alexandrovich Prigov:DistantPlanets/アートギャラリーエリツインセンター/エカテリンブルグ/ロシア
2022 Study:大阪関西国際芸術祭/グランフロント大阪/大阪/日本
誰もがWonderfulアート/静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ/静岡/日本

〈作品制作協力〉

協賛社:住化積水フィルム株式会社、株式会社寺岡製作所、株式会社ホログラムサプライ、木津川市山城総合文化センター、あおいおあ
協力者:Aimo、akira_you、中室健、成田貴亨、西川元晴、吉川賢、船越鈴賀、山本瑞穂、よこうちともひろ、李雨潔、王昊天

Artist's Comment

私の作品は空気と水と光で作られています、これらを素材として扱っていると、まるで私達／人間の在り方や振る舞い方にとても似ていると感ずることがあります。子供達と太陽熱気球あそびをする時のお話で「僕たちの心が温かくなると、宙に浮くような気分になるのと同じで、空気さんも温まるとお空に浮いていくの」
人が数百万年も空気と水と光に包まれ育まれた存在だから、私達の見えない関わり合いの姿もここにあるのかもしれない。



四方幸子 賞

Title

ネットショッピング

Online shopping

Artist

北川 純

KITAGAWA Jun



ネットショッピングという行為が日常化し、近年のコロナ禍によりその勢いは増加の一途を辿るのみである。巨大ダンボール箱が横転し、地面に沈み込んだ状態がキューブの規定サイズとなっている。その蓋の隙間から鑑賞者が出入りできる。内部空間では鑑賞者自らがシュリンク梱包された商品になってしまうような体験が待ち受けている。

Online shopping has become an ordinary daily act, spreading greatly during the recent pandemic. A giant cardboard box (associated with online shopping) turned on its side and sinking into the ground fits the space of the Cube. Visitors can go in and out of it through the opening. Inside, the experience of feeling like shrink-wrapped goods awaits.



北川 純

KITAGAWA Jun

1965年 愛知県生まれ。山梨県拠点。
Born in Aichi Prefecture in 1965 / Based in Yamanashi Prefecture.

1986 | 多摩美術大学立体デザイン科卒業
建築会社を経て美術制作開始。
主な作品/裸体像Tシャツ計画・ジッパースシリーズ・巨大バルーンシリーズ
個展、グループ展ほか公共空間やアートイベント、美術館で作品を発表する

主な受賞歴

2003 | キリンアートアワード2003/奨励賞受賞/東京
2007 | 小田原市ストリートアートコンペ/グランプリ受賞/神奈川
2015 | 六甲ミーツアート大賞準グランプリ受賞/兵庫
2020 | AAIC2020/藤森照信賞受賞/岐阜

主な展覧会

2010 | No Man’s Land /旧フランス大使館別館/東京
2014 | さっぽろアートステージ/北海道
2021 | かけがわ茶エンナーレ2020+1/静岡

〈作品制作協力〉

レンゴー株式会社

Artist's Comment

最初の紹介インタビュー動画の撮影の際、話の流れで「ダンボールから行列が伸びている様子を見てみたいな。でもそれじゃゆっくり鑑賞してもらえないだろうから良くないか。」などと冗談混じりで呟いたのでした(本編ではカットされていましたが)。その希望と心配が現実のものとなった時には正直驚きました。その事自体の是非は多々あると思いますが、通常私の経験している現代美術展での注目度の低さから比べると異例の体験であったと言えるでしょう。もう一つの異例としましてはボランティアさんの充実度です。制作時には多くの方々に手伝って頂きました。私の作品の50%は彼らの手によって出来上がっているのではないのでしょうか。要するに私は半分ぐらいしか作ってません。楽させてもらった上に、賞金だけ独り占めしてしまって申し訳ありません。



Title

バベルのランドスケープ

Landscapes of Babel

Artist

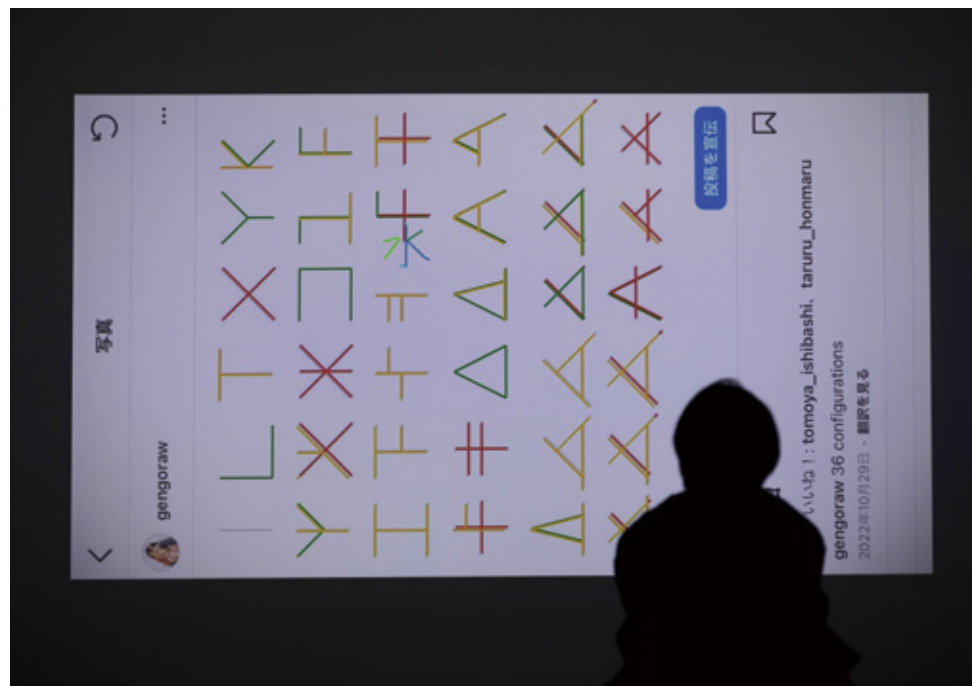
GengoRaw (石橋 友也 + 新倉 健人)

GengoRaw (ISHIBASHI Tomoya+NIIKURA Kento)



認知科学分野の研究成果に基づき、ランドスケープから文字、文章、声が生まれる光景を作り出す映像インスタレーション作品。
我々の世界認識の根底をなす「日常で目にする風景」と「言語」という一見関連性のないと思われる2つの要素を接続することで、今ここに存在する我々のリアリティに揺さぶりをかける。

This visual installation is based on the results of cognitive science research creating scenes where letters, texts, and voices emerge from landscape images.
This work connects two elements that are seemingly unrelated but in fact constitute the foundation of our perception of the world, “scenery we see in everyday life” and “language,” shaking up our reality that exists here and now.



GengoRaw(石橋 友也 + 新倉 健人)

GengoRaw (ISHIBASHI Tomoya + NIIKURA Kento)

石橋 友也:1990年 埼玉県生まれ。新倉 健人:1989年 東京都生まれ。東京都拠点。
ISHIBASHI Tomoya : Born in Saitama Prefecture in 1990 / NIIKURA Kento : Born in Tokyo in 1989 / Based in Tokyo.

石橋 友也

2014 | 早稲田大学大学院電気・情報生命専攻 修了

新倉 健人

2014 | 東京工業大学大学院理工学研究科数学専攻 修了

GengoRaw(石橋 友也 + 新倉 健人)

2018 | アーティストの石橋友也とエンジニアの新倉健人により結成

主な受賞歴

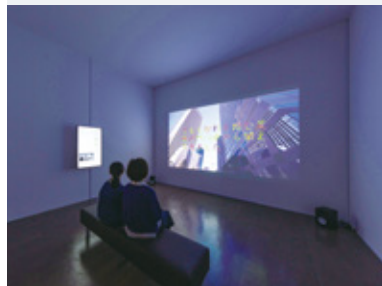
2019 | WIRED CREATIVE HACK AWARD グランプリ/日本
2021 | 第24回文化庁メディア芸術祭アート部門 審査委員推薦作品/日本
2022 | 第25回岡本太郎現代芸術賞 入選/日本/神奈川県

主な展覧会

2021 | 人工知能美学芸術展 美意識のハードプロブレムアンフォルメル中川村美術館他/長野県
個展「コトバノキカイ」/TOKAS hongo/東京都
2022 | 六本木アートナイト/六本木イグノポール/東京都

〈作品制作協力〉

アニメーションプログラミング:吉田竜二



Artist's Comment

様々なジャンルのアーティストが、同じフォーマットのなかで一堂に会する面白い展示である。作品や作家との交流を通して、作品を作ることに對する様々な解釈や議論ができ、自分達の視野が広がった。今回は大規模なプログラムを一から作るというチャレンジングな作品で、制作期間も構想からふまえると約1年かかっている。今回いただいた機会は一つの形を作り上げるという意味で我々にとってかなり有り難かった。また今後この作品にはブラッシュアップする余地があると思っているので、鋭意表現と開発力を磨いていきたい。



森村泰昌 賞

Title

NAGAMERU NAGAMERU

Artist

小孫 哲太郎 KOMAGO Tetsutaro



いく本ものテープで遮られた空間。作品自体がフィルタとなって遮られているという、視覚と感覚が混在するような、場所。

見るという事と見えるという事が変わりつつある今だからこそ、日常で使われている単純な素材でフィルタを作り、人の視点の内側と外側を、心の感情を、見たり、見られたり、そんな物事を感じてもらいながら楽しんでほしい。

This work is a space demarcated by numerous strips, a place where the visual and the sensory are intermingled, with the work demarcating itself and serving as a filter at the same time.

As what it means to look and to see is changing today, I wanted to create a filter with simple everyday materials to enable visitors to see and show the inside and the outside of their perspectives and what they feel in their hearts while feeling and enjoying such actions and emotions.



小孫 哲太郎

KOMAGO Tetsutaro

1974年 東京都生まれ。埼玉県拠点。
Born in Tokyo in 1974 / Based in Saitama Prefecture.

- 1993

本郷高校デザイン科 卒業
- 1999

沖縄県立芸術大学陶芸専攻 卒業
糸満工芸陶苑 就業 (～2001)
- 2004

千葉県いすみ市に開窯
- 2016

埼玉県ときがわ町に移転し、制作活動中

主な受賞歴

2022 | 第2回壺1GP/白白庵/東京・南青山/グランプリ受賞

主な展覧会

- 2018

ロシア・セラミックシンポジウム/ガブリロフ・ヤムinロシア'18
- 2019

ロシア・セラミックシンポジウム/ベルムinロシア'19
- 2020

リトアニア・西会津アーティスト交換プログラム/西会津NIAVとリトアニアAnyksciai nenuinkvbatorius(AML)
- 2021

望郷哲太郎/すみだ向島EXPO/京島クロスロード/黒田区京島
優・慶・快・楽 小孫哲太郎作陶展/日本橋三越/東京・日本橋

Artist's Comment

ただただセロハンテープ(幅15mm、総距離約7000m、200輪使用)を約2000回、脚立を200回昇降して張り巡らせた、私の作品「NAGAMERU」。AAIC全会期を通じて痛感した自分の頭脳経験値や寛大さや計画性の不足、CUBEを利用して空間意識や隔てられてしまう意識、さらにもありますが、私本人に会えた時、聴いてみてください。「見観視診看覧」(全てミルという意識の漢字なんです。)思いの通りに感じて鑑賞してもらう事が烏滸がましかった。想定外の事が多々で驚きばかりであったが、今回のテーマ(「リアル」のゆくえ)に救われた気がする。そして、より一層「NAGAMERU」を考えるようにもなれた。



入江経一 賞

Title

触れるもの、絶対に触れないもの

Things that can be touched, things that can never be touched

Artist

柴田 美智子

SHIBATA Michiko



箱庭に見立てたキューブの内に、心の物語に現れるたくさんの猿達と、虚構を共有することで知らぬ間に閉じ込められた人間の雛型を置く。物語によって触れ得るリアルと、目に見えない檻によって引き離されてひび割れてゆくリアルは通底するものなのか？

Inside the Cube, which is presented as a miniature garden, are arranged many figures of monkeys that are characters in a story of the heart and human figures trapped there without being aware through the act of sharing a fiction. Is there a common ground between the real that can be touched through a story and the real that is isolated and cracks up in an invisible cage?



柴田 美智子

SHIBATA Michiko

1955年 東京都生まれ。東京都拠点。
Born in Tokyo in 1955 /Based in Tokyo.

1980 | 美学校 絵画教場にて菊畑茂久馬に師事する(～1982)
1994 | 主に個展、グループ展で作品の発表を行う(～現在)

主な展覧会

1994 | 「個展」廃墟に似た場所/好文画廊/東京都
1997 | 「個展」縁をなぞる/Gallery FLESCA/東京都
1999 | 「個展」不能/Key Gallery/東京都
2003 | 「個展」デッサン集・道を歩く猿/Key Gallery/東京都
2009 | 「個展」この世の水/Span Art Gallery/東京都
2011 | 「個展」牛に触れる/新宿眼科画廊/東京都
2017 | 「個展」変容/SPC Gallery/東京都
2018 | 「個展」猿が家の中に居る/宇フォーラム美術館/東京都
2020 | 「個展」緊急避難/Gallery broken/東京都
2021 | 「個展」祖霊/1010 Art Gallery/神奈川県
2003 | カメ3展/ギャラリーパルコ/東京都
2006 | 今日の反戦展/原爆の図丸木美術館/埼玉県
2017 | 815展/好文画廊/東京都(～2022)

〈作品制作協力〉

鉄のオブジェ作家 永井キオ氏、ボランティアスタッフの皆様

Artist's Comment

既成の概念でありながら、その定義は個々に託された部分を持つ「芸術」という継承を実際に制作することによって考える者にとって、審査員やSNSの評に接し、他の作家達の作品を創り出す工程をかいま見ることが出来た今回のAAICでの体験は、とても貴重な糧となりました。この糧を鞘に入れ猿に手を引かれて先へと進んでまいります。「リアルなゆくえ」というずっと手離さずに考えてゆくべきテーマを与えられた幸甚に感謝しつつ。



Title

スクランブル交差空間 —不干涉の調和—

Scramble Crossing Space -Harmony of Non-Interference-

Artist

身体企画ユニット ヨハク

YOHAKU



価値観の広がった現代で、おそらく全く違う世界を見ているであろう隣人と、ぶつからず、ふれあわず、しかし同じ空間で生きる。それも新たな調和の形。キューブの中を6つの身体が動き、それぞれの1人称視点映像が投影される。個人的な視野を通して捉えたリアルの断片は空間に積層し、不干涉の調和を描き出す。

In the modern era, where the sense of values has broadened, we live in the same space with neighbors who probably see a completely different world, without bumping into each other or touching each other. It's also a new form of harmony. Six bodies move inside a cube, and a first-person perspective of each of them is projected on the screen. Fragments of reality captured through personal vision are laminated in the space, depicting a harmony created by non-interference.



身体企画ユニット ヨハク

YOHAKU

秋山 きらら:1991年 東京都生まれ。加藤 航平:1990年 千葉県生まれ。東京都拠点。
AKIYAMA Kilarla : Born in Tokyo in 1991 / KATO Kohei : Born in Chiba Prefecture in 1990 / Based in Tokyo.

秋山 きらら

2015 | 立教大学現代心理学部映像身体学科 卒業
2021 | 無言に耳をすますパフォーマンスフェスティバル『ZIPPED』ディレクション /スパイラル

加藤 航平

2014 | 東京大学工学部システム創成学科 卒業
2020 | 週刊少年ジャンプ 第5回ストキンProにて準入選

主な受賞歴

2021 | Legend Tokyo CHRONICLE 30秒クリエイター部門 最優秀クリエイター賞+優秀演出賞+CHET賞/東京
アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2021 汗かくメディア賞/愛知

〈パフォーマンス出演〉

視点1:秋山きらら
視点2:加藤航平
視点3:中村朱里
視点4:牧野彩季
視点5:遠藤七海
視点6:伊藤圭基、石本幸暉

〈作品制作協力〉

音楽:高位妃楊子
設営協力:寺田鵬弘、谷崎壮太郎
テクニカルアドバイザー:湯中直斗

Artist's Comment

身体企画ユニット ヨハクは、パフォーマンスを軸に、舞台や映像表現、遊びやインスタレーションなどアウトプットの方法を模索しながら表現活動を行なっています。今回は、初めての長期間に及ぶ展示となり、またAAICとしても初めてのパフォーマンス系の表現だったと伺っています。人間の身体が展示空間に現れることの強さがある一方で、物質的な展示としてのみでも成り立つ強度を持たせることに苦心しました。会期後半では、SNSでの反響により様々な層の鑑賞者が訪れ、展示を楽しむ方法も非常に多様化していたことが印象深いです。ヨハクの手法を用いてキューブの制約を活かしつつ、テーマに応答するという挑戦をサポートいただいたすべての方に感謝致します。



Title

Aftereal 6
Aftereal 6

Artist

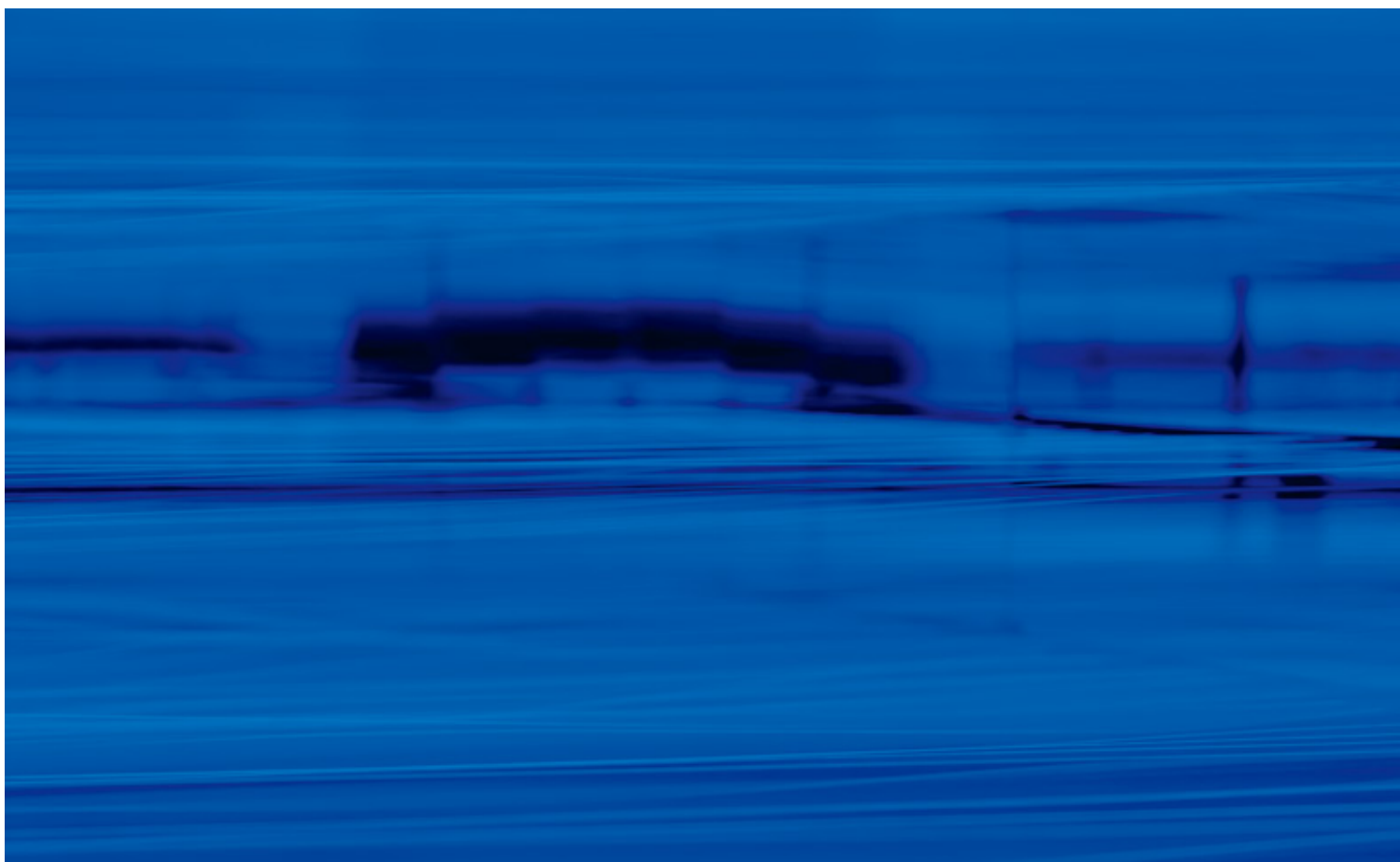
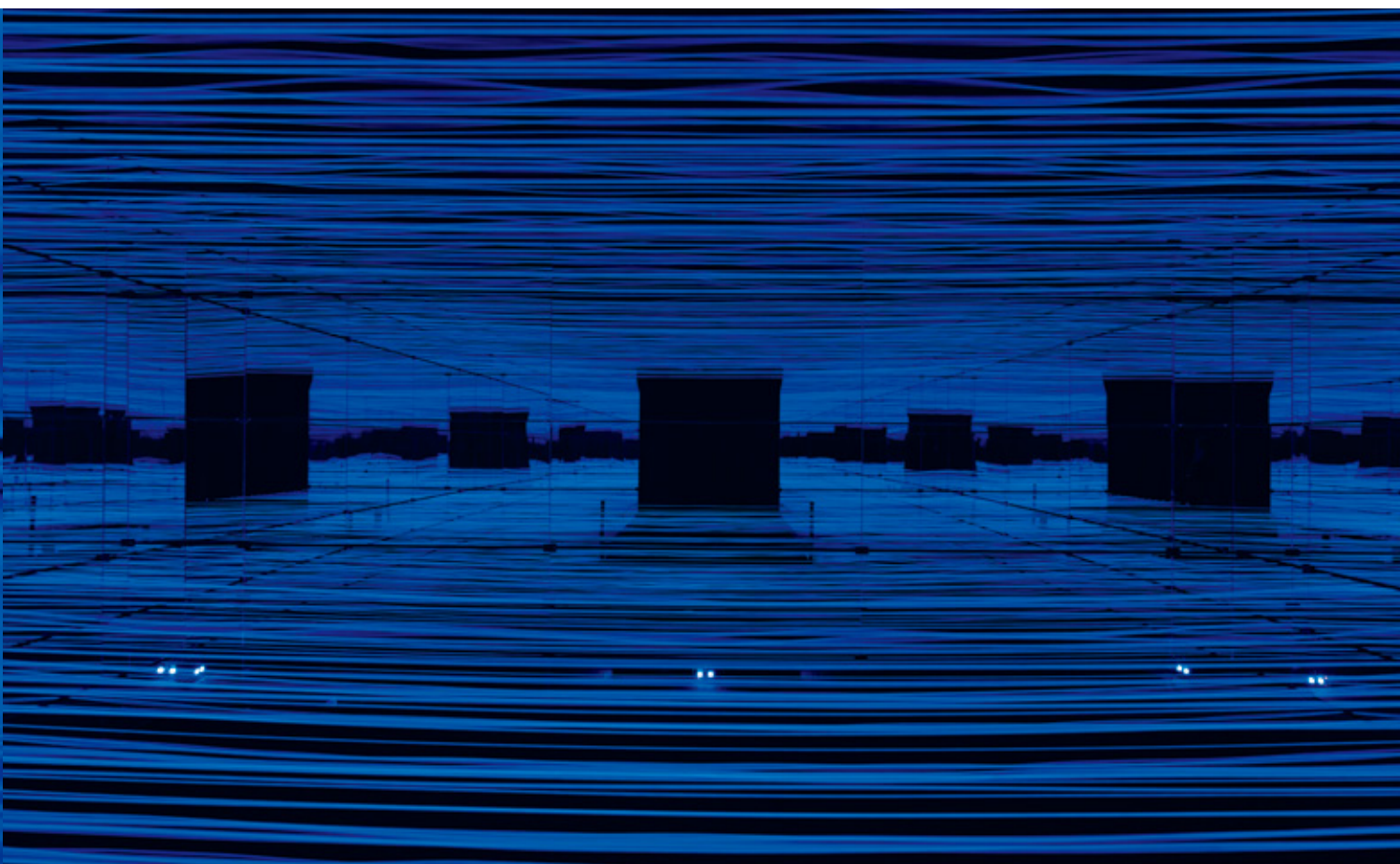
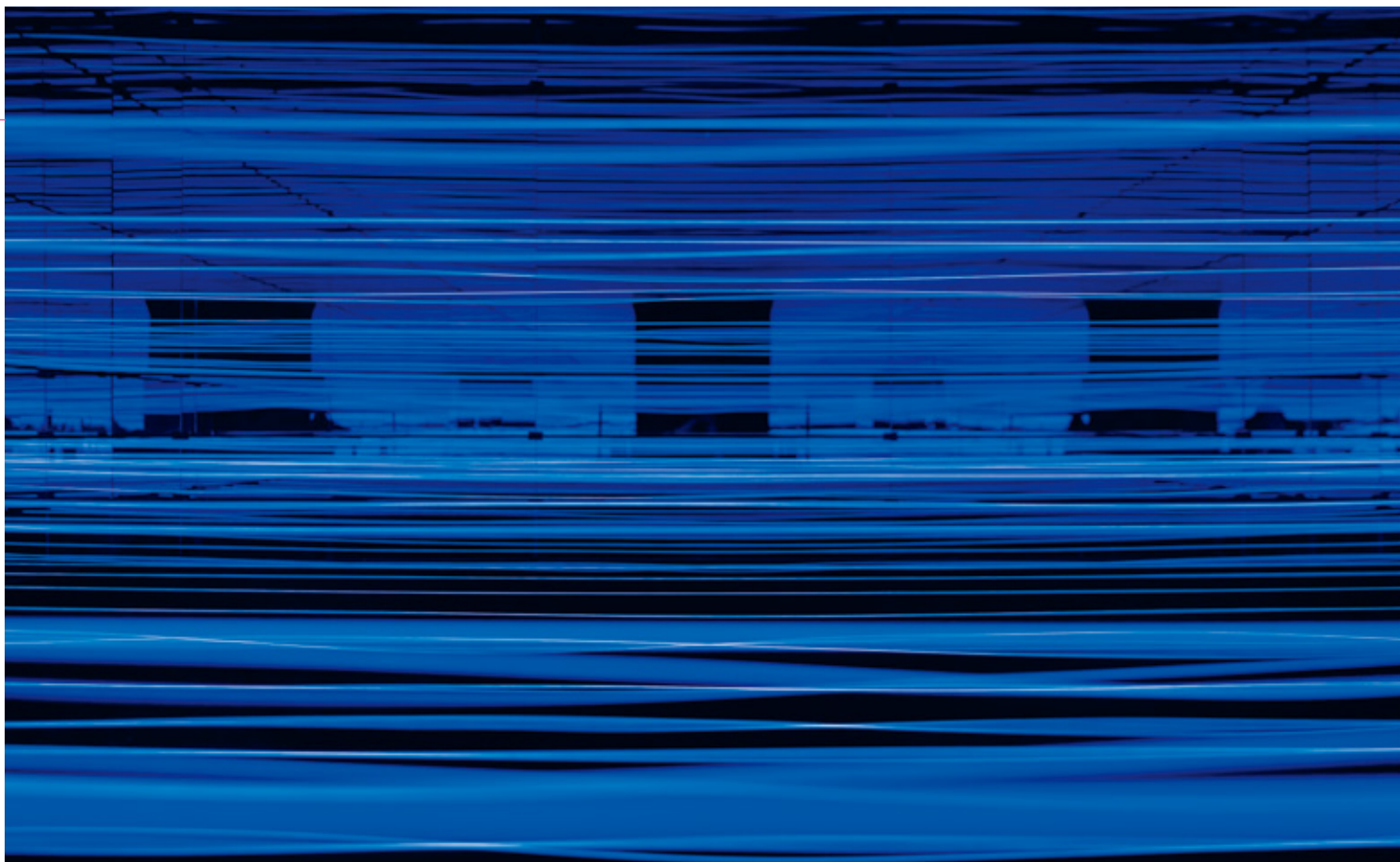
千田 泰広
CHIDA Yasuhiro



Photo by Tooru Tsuji

鑑賞者は作品内部に入り、高速で振動する蛍光糸で作られた空間を体験する。糸は紫外線で発光し、その光の残像のみが知覚される。眼と脳によって作り出された、実在しない体験をする。リアルなゆくえは、知覚不可能な存在に触れ、無目的な思考をするものに委ねられている。

Visitors can step inside this work to experience a space filled with rapidly vibrating fluorescent threads. As the threads glow in ultraviolet light, visitors can only perceive their afterimages. In this manner, they experience something that does not exist but is created by their eyes and brain. Where the real will go from there depends on whether or not they can touch the imperceptible and think without intentions.



千田 泰広

CHIDA Yasuhiro

1977年 神奈川県生まれ。長野県拠点。
Born in Kanagawa Prefecture in 1977 / Based in Nagano Prefecture.

現 在 | 世界の8人の光のアーティスト(2022 Optica)
「空間の実体化」と「体性感覚の変容」をテーマに制作。欧州、北南米、アジアなどで活動
自作を常設する空間美術館を長野県辰野町に建設中

主な受賞歴

2018 | Life geek award/Emerging space prize/China/Shanghai
2019 | International Light Art Award Audience prize/Germany/Unna

主な展覧会

2020 | Yuejin Lantern Festival/Tainan/Taiwan
Kunst Fest Spiele/Hannover/Germany
2021 | Wonderspaces/Austin,Scottsdale,Philadelphia/U.S.
Fête des Lumières/Lyon/France
2023 | Lux Helsinki/ Helsinki/Finland

〈作品制作協力〉

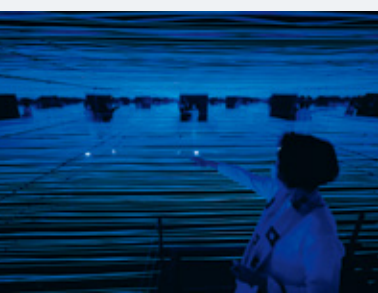
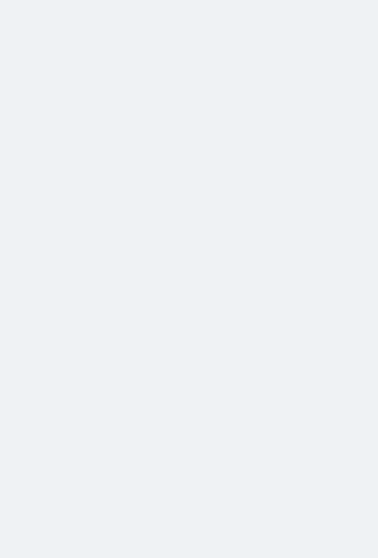
Technical support: Olaf Scharaa

Sound: Asako Miyaki

Special thanks: Hirohiko Koyamada, Kishin Himori

Artist's Comment

意味や物語は、人に向かって、言葉によって作られる。そこに制約はなく、意図的な操作が可能だ。形は技術によって作られ、物理世界と向き合う普遍的な能力が要求される。それを私は知性と呼びたい。それが何であるか(意味)と同様に、それがどうであるか(質)が大切だ。質が高ければ、詐欺的であれ、娯楽的であれ良いのだと思う、質とは精神の現れなのだから。質を見られる人間がいつまでもいてくれることを願いたい。宣長のこの言葉。姿は似せ難く、意は似せ易し。



Title

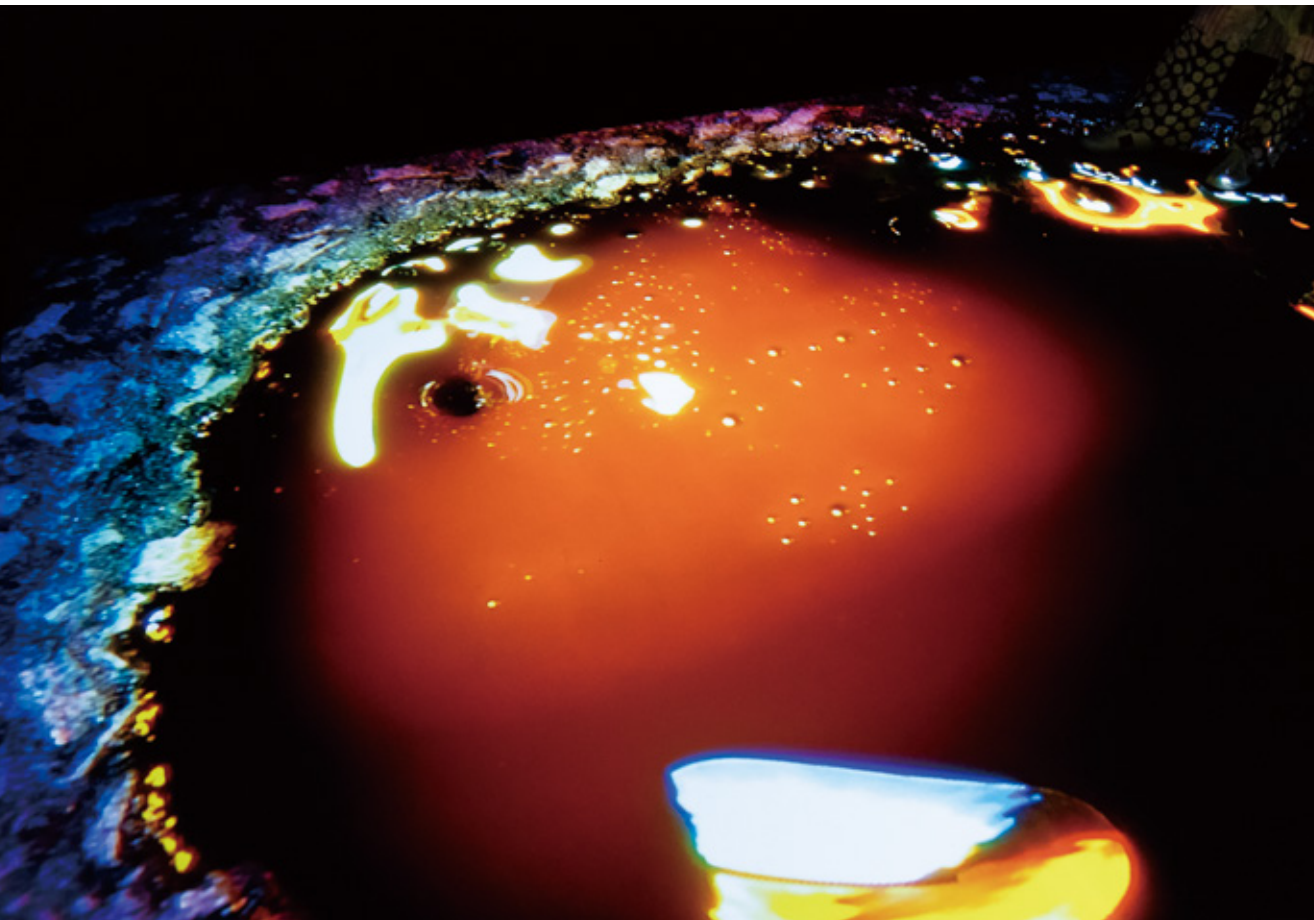
Melting Hida Mountains

Melting Hida Mountains

Artist

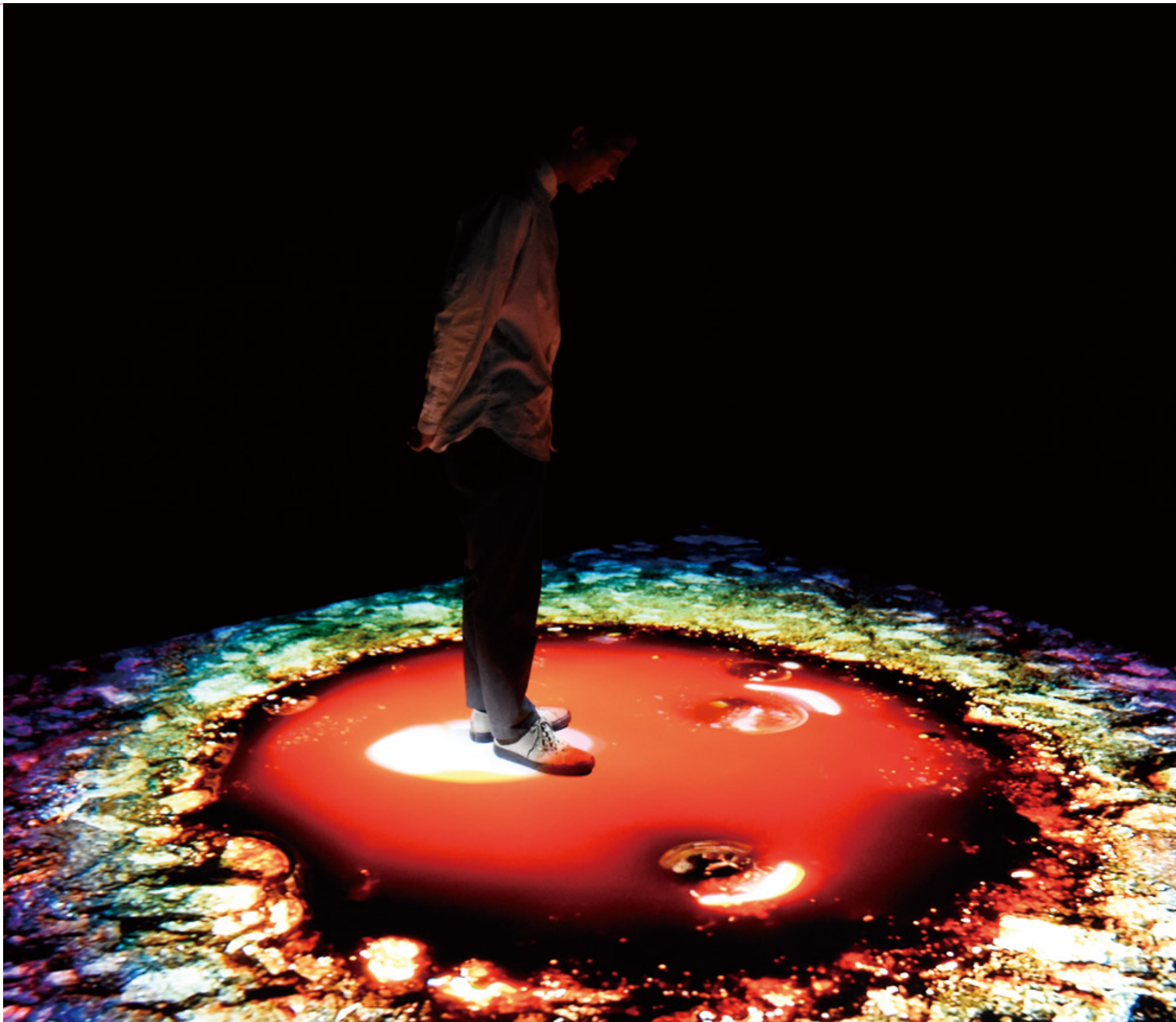
千葉 麻十佳

CHIBA Madoka



宇宙空間にある太陽から発する光を使い、火山噴火という地球の活動で生まれた火山石を溶かす。石は溶けるとマグマになる。マグマの再現は石の時間を戻す行為であり、土地の歴史を遡る行為である。映像という虚構のマグマの上に立つことは、今いる場所、自然、地球、宇宙などについて思考を巡らす契機となる。

Light emitted from the sun in outer space melts rocks produced in volcanic eruptions, an activity of the earth. Rocks melt into magmas. Reproducing magmas is therefore an act of turning back the time of rocks, tracing the history of the land. Standing on top of fictitious images of magmas, viewers are invited to contemplate where they are at this moment, Nature, the earth, the universe, and more.



千葉 麻十佳

CHIBA Madoka

1982年 北海道生まれ。北海道拠点。
Born in Hokkaido in 1982 / Based in Hokkaido.

2009 | 東京藝術大学大学院彫刻専攻 修了

主な受賞歴

2011 | 前橋アートコンペライブ銅賞/群馬県
2012 | 前橋アートコンペライブ審査員賞/群馬県

主な展覧会

2015 | 中之条ビエンナーレ2015/中之条町/群馬県 英名:Nakanojo Biennale 2015
2017 | 1000 Grad/Hohhaus Museum「個展」/ドイツ 英名:1000 Degrees
2018 | ウェザーリポート 風景からアースワーク、そしてネオ・コスモグラフィア/栃木県立美術館/栃木県
英名:Weather Report From Landscape via Earthworks to Neo-Cosmographia
2019 | 光が射す/ギャラリーオフグリッド「個展」/福島県 英名:Lightrays
2022 | TOKACHIDAKE「個展」/富良野市博物館/北海道 英名は日本語タイトルに同じ
水郡線奥久慈アートフィールド/大子町/茨城県 英名:SUIGUN LINE OKUKUJI ART FIELD

〈作品制作協力〉

展示技術/映像音響技術/機材協力:宮路雅行
映像撮影:小林大賀
設営補助:宇留野圭、玉田大和
外壁画等:ボランティアの皆さま
制作協力:さっぽろ天神山アートスタジオ

Artist's Comment

2022年11月に作品の石を拾うため岐阜県を旅しました。そのとき初めて、スーパーカミオカンデがあり、長良川が太平洋と日本海の分水嶺に横たわっていて、栗きんとんがこんなにもおいしかったことを知りました。それまで私の中の岐阜県はぼんやりとした空間でしたが、この経験により、私にとってここが具体性を伴う場所に変わりました。今作では、宇宙における地球という星を、石の時間を戻すことで空間から場所へ変化させようと試みました。地球のどこにいても足のずっと下はひとつの点でつながっています。今作が岐阜だけに留まらず、地球や宇宙まで思考を広げるきっかけとなってくれたらうれしいです。



岩崎秀雄 賞

Title

橋の形
Shapes of bridges

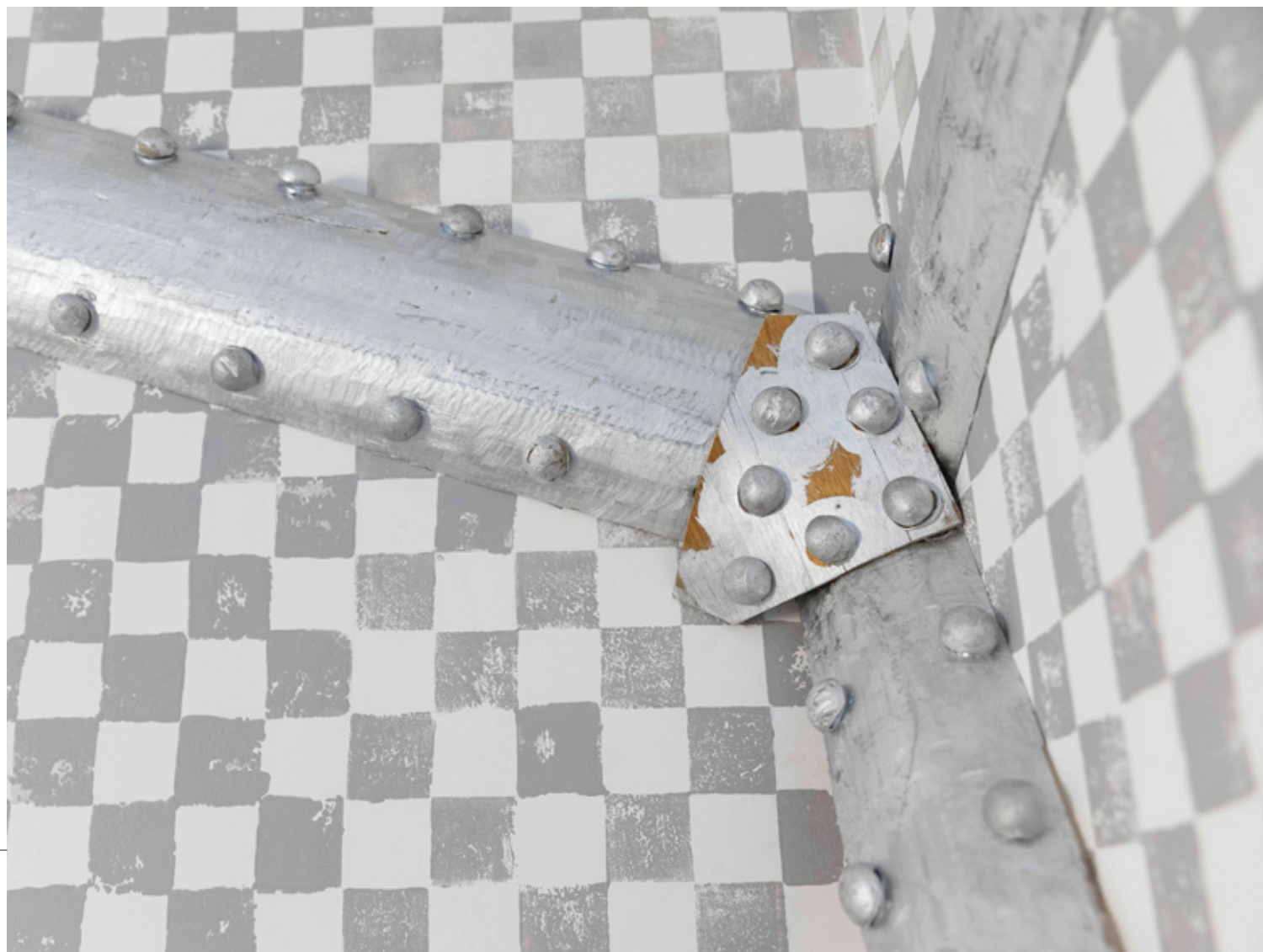
Artist

古屋 崇久
FURUYA Takahisa



岐阜県は、言わずと知れた大きな一級河川が何本も流れている土地であり、橋の数も計り知れない。その為この土地では、橋に対する恩恵をより大きく受けているのかもしれない。美術館周辺・岐阜県内を中心に河川等で橋の形をリサーチ。橋の概念、形に関して考察しキューブに落とし込む。

It is well known that there are several large (Class I) rivers in Gifu Prefecture, with numerous bridges over them. It can thus be said that Gifu benefits enormously from bridges. This work is a condensation into the Cube of research into the shapes of the bridges located around the museum and within Gifu Prefecture and observations regarding the concepts and shapes of bridges.



古屋 崇久

FURUYA Takahisa

1991年 山梨県生まれ。埼玉県拠点。
Born in Yamanashi Prefecture in 1991 / Based in Saitama Prefecture.

主な受賞歴

2016 「六甲ミーツ・アート芸術散歩2016」グランプリ/兵庫県
2019 「Tokyo Midtown Award 2019」優秀賞・オーディエンス賞/東京都

主な展覧会

2013 小菅村プロジェクト/小菅村内/山梨県(～2016)
2014 木津川アート2014/西谷邸跡地/京都府
2015 ますとみやまART2015/旧増富中学校/山梨県
中之条ビエンナーレ/中之条町内/群馬県
2016 六甲ミーツ・アート芸術散歩/六甲山/兵庫県
2017 両面片隅一道風景/53美術館/中国/広東省
中之条ビエンナーレ/中之条町内/群馬県
六甲ミーツ・アート芸術散歩/六甲山/兵庫県
第20回我孫子国際野外美術展/国道356土手/千葉県
アーツさいたま・きたまちフェスタ/プラザノース/埼玉県
2018 アートアイランズTOKYO 2018/旧波浮小学校/東京都
Art Viewing OME/青梅市立美術館/東京都
2019 個展・ストレスの形/Over The Border/東京都
Tokyo Midtown Award 2019/Tokyo Midtown Roppongi/東京都
Art Viewing OME/青梅市立美術館/東京都
2020 アーツさいたま・きたまちフェスタ/プラザノース/埼玉県
2021 Art Viewing OME/青梅市立美術館/東京都
2022 六本木アートナイト2022/Tokyo Midtown Roppongi/東京都

〈作品制作協力〉

川尻哲也、倉持太一、コミヤマレンマ

Artist's Comment

今回、キューブの内側をデザインソフトで用いられる透明化を意味する市松模様で覆い、その中に岐阜県各所で抽出した橋の元となる形を配置した。現地で見る事、聞く事、話す事、匂う事、触る事、資料・小説を読み漁り追体験する事、夢で見る事。全てが何かと何かを繋いでいる橋のような存在であった。河川に架かる橋と違うのは、常に漂っている事。河川に架かる橋を元にそんな形を表現することにした。それは、何処とも繋がっていない橋の形。気が付けば、2022年12月から2023年6月の半年間も岐阜県に毎月通っていた。取材・サポートをしてくれた方々に感謝申し上げます。



Title

アンブレラ種

Umbrella species

Artist

florian gadenne + miki okubo

フロリアン・ガデン+ミキ・オオクボ



生物学で生態系ピラミッドの頂点に立つ敵無しの捕食者を意味する「アンブレラ種」。その適切な保護はその〈傘〉に含まれる生態系全体の保全によってこそ実現する。山・川・森から成る三連水彩画には、イヌワシを頂点とする、岐阜県の豊かな自然の複雑な生物間ネットワークが精緻に描かれている。インスタレーションを通じて、切迫した生態系危機を生きる新しいエコロジー思想を模索する。

In biology, the term “umbrella species” denotes an enemy-free predator at the top of an ecological pyramid. An umbrella species can be properly protected only by conserving the entire ecosystem that comes under the umbrella. The triptych watercolor paintings of mountains, rivers, and forests are a minute depiction of the complex interspecies networks existing in the rich natural environment of Gifu Prefecture, with golden eagles at the top. The installation invites viewers to explore new ecological ideas for living amid the urgent ecological crisis.



florian gadenne + miki okubo

フロリアン・ガデン+ミキ・オオクボ

florian gadenne:1987年 パリ生まれ。miki okubo:1984年 札幌生まれ。北海道・岐阜県拠点。
GADENNE Florian : Born in Paris in 1987 / OKUBO Miki : Born in Sapporo in 1984 / Based in Hokkaido and Gifu Prefectures.

florian gadenne

2006	JB Corot高等学校卒業、パカロレア取得、ディプロマDiplôme National Supérieure d'Expression plastique (DNSEP) 取得
2011	ナント・サン＝ナゼール高等美術学校(École supérieure des beaux-arts de Nantes Saint-Nazaire) 卒業(学士号)
2013	ナント・サン＝ナゼール高等美術学校(École supérieure des beaux-arts de Nantes Saint-Nazaire) 修了(修士号)

miki okubo

2010	京都大学人間・環境学研究科 修了(人間・環境学修士) パリ第8大学造形芸術・現代アート科 修了(芸術修士)
2013	パリ国立高等装飾美術学校研究員プログラム 修了(2010～2013)
2015	パリ第8大学大学院 美学芸術の科学とテクノロジー 修了(芸術博士)
2023	情報科学芸術大学院大学(准教授、現職)

主な受賞歴(florian gadenne)

2017	現代アートフェスティバル<Paris Artistes>入選/フランス
2022	第10回500m美術館賞 グランプリ賞/北海道
2023	FACE 2023 (Frontier Artists Contest Exhibition) 入選/東京

主な展覧会

2017	フロリアン・ガデン個展「monades」/La Menuiserie de Therdonne/フランス グループ展「ファルマコン:医療とエコロジーのアプローチによる芸術的感化」/The Terminal KYOTO/京都府
2018	デュオ展「Orbite elliptique:松田有加里×フロリアン・ガデン」/ギャラリーサラ/滋賀県
2020	グループ展「ファルマコン:連鎖/反応」/アトリエみつしま/京都府
2021	グループ展「ファルマコン:死生への捧げもの」/アトリエみつしま/京都府
2022	グループ展「ファルマコン:新生への捧げもの」/TheTerminal KYOTO/京都府

〈作品制作協力〉

助成:公益財団法人 野村財団

協力:岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター、art-sensibilisation

Artist's Comment

岐阜に移住した私たちの最初の作品が岐阜県の豊かな自然に着目した「アンブレラ種」となったことは記念碑的であり、多くの県民の皆様に鑑賞いただけたことを心より光栄に思います。研究と制作に五ヶ月を要した「山」「川」「森」の三連画が描く美しい〈生〉の有様はCUBE外壁を超えて鑑賞者一人ひとりの心にしみ入り、私たちが自らを取り巻く環境と築く関係性について丁寧に思考し配慮するよう促し続けてくれることを願います。



Title

One room

One room

Artist

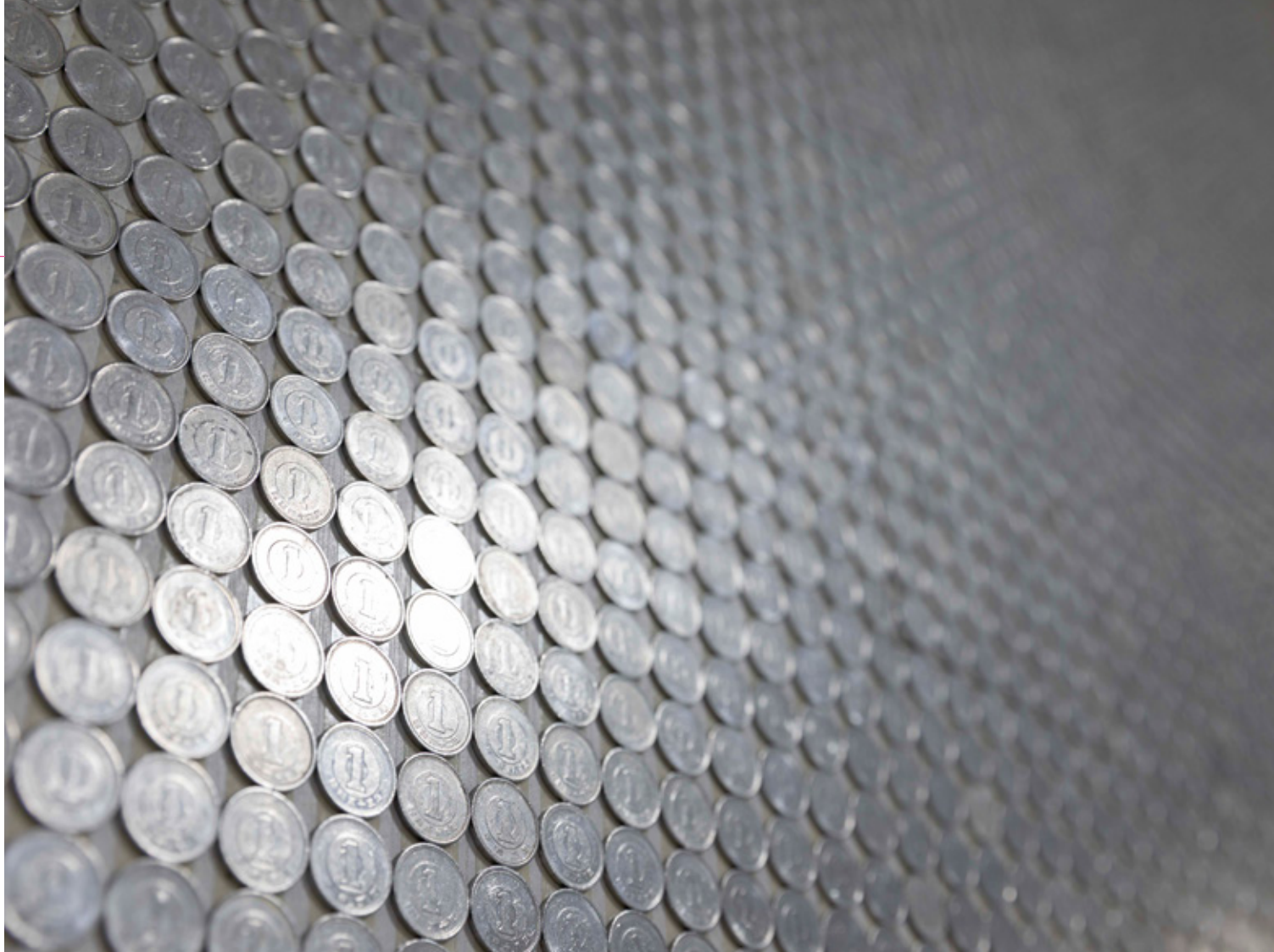
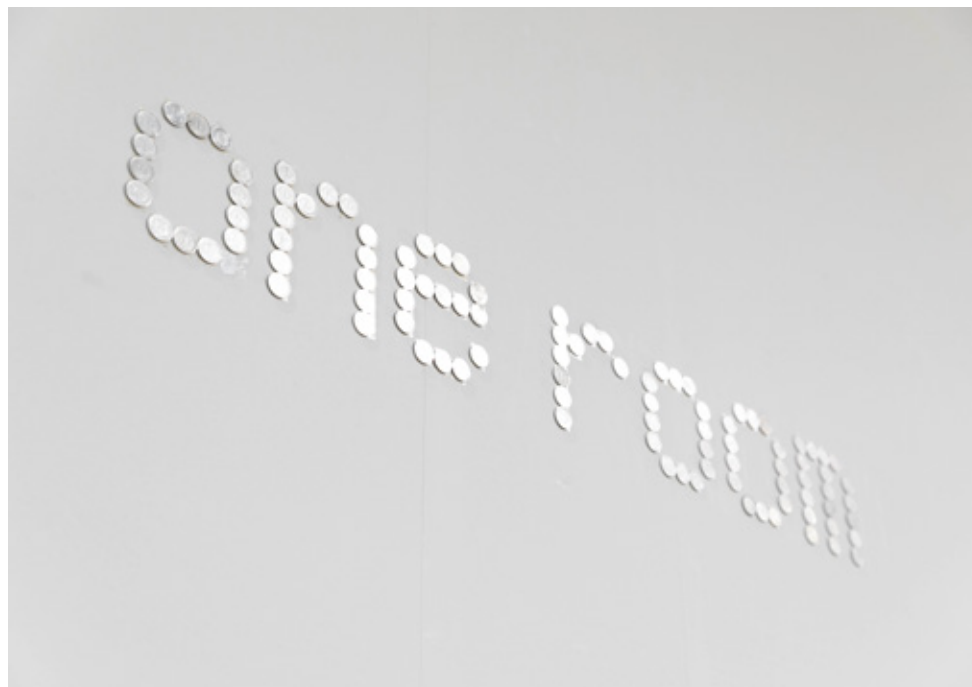
山本 雄教

YAMAMOTO Yukyo



床面に至るまでキューブ全体に敷き詰められた一円硬貨は、貨幣というルールから離れ、物質的な存在感が露わになる。そこから見えてくるのは硬貨の「もの」としての魅力か、あるいは離れることで再認識される貨幣のルールか。
またキューブ内に入る時、硬貨を踏むかどうか考えるその一瞬には、それぞれの考え方や価値観が現れるだろう。そしてそんな人々の姿を、硬貨は反射し映し出す。

Covering the entire interior of the Cube, including the floor, one-yen coins depart from the rule of currency and reveal their materiality. Is what emerges their beauty as “things” or the rule of currency, of which one can become conscious anew as the coins depart from it? To go further inside the Cube, visitors must step on the coins on the floor. In that brief moment they wonder whether or not to do so, and their respective ways of thinking and values will manifest themselves, as the coins silently reflect their silhouettes.



山本 雄教

YAMAMOTO Yukyo

1988年 京都府生まれ。京都府拠点。

Born in Kyoto Prefecture in 1988 /Based in Kyoto Prefecture.

- 2010 | 成安造形大学造形美術科日本画クラス 卒業
- 2013 | 京都造形芸術大学大学院修士課程ペインティング領域 修了

主な受賞歴

- 2020 | 京都 日本画新展2020/奨励賞・京都市長賞/美術館「えき」KYOTO/京都府
- 2021 | 第8回トリエンナーレ豊橋 星野真吾賞展/準大賞/愛知県

主な展覧会

- 2018 | 「個展」青いテントと五つの輪/YOD gallery/大阪府
- 2019 | 「個展」faint noise/+1art/大阪府
- 2021 | 「個展」豊穣の空洞/河岸ホテル/京都府
- | 「個展」Mosaic life/高島屋大阪店・新宿店・米子店・日本橋店/大阪府・東京都・鳥取県
- | 第8回東山魁夷記念 日経日本画大賞展/上野の森美術館/東京都
- 2022 | 「個展」How much?/Artglorieux GALLERY OF OSAKA/大阪府
- | 「個展」〇〇〇〇円の芸術家/至峰堂画廊/東京都・大阪府
- | たえて日本画のなかりせば:東京都美術館篇/東京都美術館/東京都
- | 市制90周年記念 わたしたちの絵 時代の自画像/平塚市美術館/神奈川県

Artist's Comment

会期中は作品全体で何枚の1円玉が使われているのかという質問が多かったそうなのですが、せっかくなので(?) One roomにかかったお金をざっと計算してみました。1円硬貨:202,030円、両替費:121,200円、パネル代:557,700円、その他制作費:229,008円、搬入時の交通・宿泊費:37,810円、輸送費:140,000円 合計:1,287,748円。…これもひとつのリアルのゆくえ!

